

## DOOR公開講座 (参加無料)

「DOOR公開講座」では、次年度からの受講を検討している方を対象に、1年間の授業についての説明と受講生の声を聞く「トークセッション」を行います。またゲストによる講義も開催します。お気軽にご参加ください。

2020年1月20日[月] 受付17:00~

トークセッション 17:20~18:00

特別講義 18:20~19:50

「聖人とバイアス」  
~課題解決型クリエイティブが  
思考停止を破壊する~

講師 澤邊芳明  
株式会社ワントゥーテン  
代表取締役社長

料金 無料、申込先着(定員60名)

場所 東京藝術大学上野キャンパス  
美術学部中央棟1F 第1講義室  
(台東区上野公園12-8)

お問い合わせ・お申込み DOORプロジェクトウェブサイトよりお申し込みください。  
<http://door.geidai.ac.jp/info>

2020年1月27日[月] 受付17:00~

トークセッション 17:20~18:00

特別講義 18:20~19:50

「感性と科学」

講師 ロマン トゥルブレ  
Tara Océan財団  
エグゼクティブディレクター

澤和樹  
東京藝術大学 学長

日比野克彦  
東京藝術大学 美術学部長

古川聖  
東京藝術大学  
美術学部教授

## 受講生募集概要

募集人員 50名 \*応募者多数の場合は書類審査を実施。

主な受講場所 東京藝術大学上野キャンパス他

在籍期間 1年間(2020年4月1日~2021年3月31日)

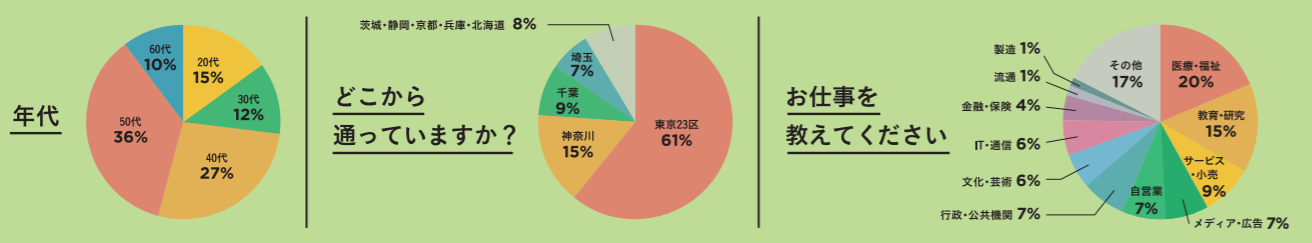
受講料 204,000円(別途検定料 9,800円)

募集対象

(1)高等学校卒業以上の学歴を有する者。(2)前項と同等以上の学力があると大学が認めた者。

\* 外国人志願者は、授業履修に支障のない日本語能力が必要である。

2019年度  
受講生アンケート



東京藝術大学 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

お問い合わせ

東京藝術大学履修証明プログラム Diversity on the Arts Project (DOOR)

住所:〒110-0002 東京都台東区上野桜木1-7-5 ハウス上野の山 B1

TEL・FAX:03-5834-7938(10:00-18:00/水木祝・休) MAIL:info-door@ml.geidai.ac.jp URL:<http://door.geidai.ac.jp/>

アクセス

J R 上野駅(公園口)より徒歩16分 / 日暮里駅より徒歩13分  
東京メトロ 銀座線・日比谷線 上野駅より徒歩17分 / 千代田線 根津駅より徒歩9分  
京成電鉄 京成上野駅より徒歩15分  
都営バス 上26系統(亀戸⇄上野公園) 20谷中バス停より徒歩4分  
台東区循環バス 東西めぐりん 桜木会館前バス停より徒歩1分



## 出願の流れ

### 願書の取り寄せ

①入学願書をDOORホームページからダウンロード([door.geidai.ac.jp/info](http://door.geidai.ac.jp/info))

藝大 DOOR

②電話・FAX・メールで取り寄せる

資料請求 東京藝術大学 美術学部教務係

TEL:050-5525-2127

FAX:03-5685-7767

MAIL:bijutsu.kyomu@ml.geidai.ac.jp

### 願書作成

課題および必要書類を整える。

課題 ①DOORで学ぶ動機

②あなたがみつけたダイバーシティを教えてください。

(A4用紙1枚にまとめ、必ず氏名を記入してください。)

### 振込み

検定料9,800円を振込む。

振込期間 1月10日(金)~2月12日(水)

提出書類一式を封筒に入れ  
書留郵便にて送付(持ち込み不可)

提出先 東京藝術大学 美術学部教務係  
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

受付期間 1月10日(金)~2月12日(水)  
※郵便局消印がこの期間内のもの。

選考の結果・受講の手続きについては  
3月15日頃に大学より郵送にて通知します。  
受講料の振込は選考後となります。

東京藝大で社会人と藝大生が  
一緒に学ぶ福祉と芸術

東京藝術大学履修証明プログラム

# Diversity on the Arts Project

120時間の受講で  
履修証明を取得

講義

演習

eラーニング

履修証明制度について

文部科学省が推奨する、社会人等を対象として大学が体系だった学習プログラムを提供する仕組み。120時間の受講で履修証明書を取得できます。



<http://door.geidai.ac.jp/>

## DOORディレクター



日比野克彦  
東京藝術大学  
美術学部長

「Diversity on the Arts Project」(通称:DOOR)は、「アート×福祉」をテーマに、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクトです。講師として、現代の社会に生きづらさを感じている当事者、社会と関わりを持ち表現を行うアーティスト、現代の福祉をより広い視点で捉え直す多様な分野の専門家を迎えます。アートと福祉が滲みあうフィールドをお互いの作用において拡張しながら、体系的かつユニークなカリキュラムを展開していきます。

これまでの講義レポートはWEBサイトにて

## DOOR8つの魅力

- 1 藝大生と一緒に学ぶ講義と演習。
- 2 アーティストや多様な福祉の実践者、障害のある当事者を含む、30名を超える講師陣。
- 3 アートを介してコミュニティを育む「とびらプロジェクト」(東京都美術館×東京藝術大学)との交流カリキュラム。
- 4 ワークショップメイキング、福祉施設でのリサーチや実習、アートプロジェクトへの参加など、実践多数。
- 5 DOOR eラーニングで講義を約100時間、視聴可能。
- 6 藝大図書館が1年間利用できる。
- 7 DOORの拠点、藝大の施設をグループミーティングや作業場所として使用可能。
- 8 世代、職業など背景の異なる受講生との出会いから生まれるネットワーク。

## 必修科目

### 【ダイバーシティ実践論】

期間 通年 曜日 月曜日 日数 15日 時間 18:20-19:50  
場所 東京藝術大学

当事者や実践者との対話を通して、現代の福祉を考えるオムニバス形式の講義。これからの社会を創造する実践につながる思考を編んでいくことを目指す。

### 【ケア原論】

期間 通年 曜日 月曜日 日数 15日 時間 18:20-19:50  
場所 東京藝術大学

福祉の基礎を学び、わたしたちを取り巻く環境が抱える問題について理解を深める。また、現代の福祉とアートの接点について考察する。

### 【プログラム実践演習】

期間 通年 曜日 主に土曜日 日数 活動に応じる  
場所 東京藝術大学、課外活動

多様な人々がともに過ごす場をつくるワークショップを考案し、実践する。また、社会の中で見過ごされがちな事象に目を向けてきたアーティストの眼差しに触れ、学びを深める。

### 【ケア実践場面分析演習】

期間 8月～2月 曜日 主に土曜日 日数 活動に応じる  
場所 福祉施設、東京藝術大学

実際の福祉の現場へ足を運びグループワークなどで協同しながら、ケアの現場をより社会に開かれた場とする方法を考察する。福祉の現場に、自らの活動を作り出すための実習。



## 選択科目

東京藝大の講義、東京都美術館で行なわれる講座などを選択できます。希望者多数の場合は抽選になります。

### 東京藝大集中講義

#### 【ハンディームービープラクティス】

期間 通年 曜日 主に土日 日数 未定 場所 東京藝術大学、他  
日本サッカー協会(JFA)と共同し、SDGs(Sustainable Development Goals)をテーマに映像制作・編集の技術を学ぶ。協力:公益財団法人日本サッカー協会(JFA)

#### 【色彩学】

期間 夏季 日数 連続4日 場所 東京藝術大学、上野公園  
絵画的側面だけでなく生活世界のあらゆる分野に関わる「色彩」。表現未満の「種」を見出す感覚・感性を養う。

#### 【人間形成学総論】

期間 夏季 曜日 主に土日 日数 4日 場所 東京藝術大学  
芸術活動と切り離せない、形作ること、人間の性質や能力を育て形成する教育とを重ねた「陶冶」としての教育学。

#### 【アートプロジェクト実践論】

期間 夏季 曜日 主に土日 日数 4日 場所 東京藝術大学  
アートプロジェクトはどこへ向かうのか。実践的立場から行なう検証と考察。

とびらプロジェクトとは東京都美術館と東京藝術大学が連携して行うソーシャルデザインプロジェクトです。



### とびらプロジェクト交流カリキュラム

#### 【アート・コミュニケーション基礎】

期間 4月～6月 曜日 土曜日 日数 6日 場所 東京都美術館  
コミュニティづくりの基礎を学ぶ講座。アートを介して、対話やコミュニケーションが起こる場のデザインについて学ぶ。

#### 【アクセシデザイン基礎】

期間 7月～2月 曜日 日曜日 日数 8日 場所 東京藝術大学  
障害をもつ当事者や社会的弱者の支援に取り組む組織・専門家を招き、人々がアートを介して多様な価値にアクセスできる環境について学ぶ。

#### 【美術鑑賞実践演習】

期間 6月～2月 曜日 主に月曜日 日数 10日 場所 東京都美術館  
対話を生み、自由な発想で、主体的に見る鑑賞の場づくりとは? 講義と実践を通して考える。



「マルモッタン・モネ 美術館所蔵 モネ展」 東京都美術館

## DOOR eラーニング

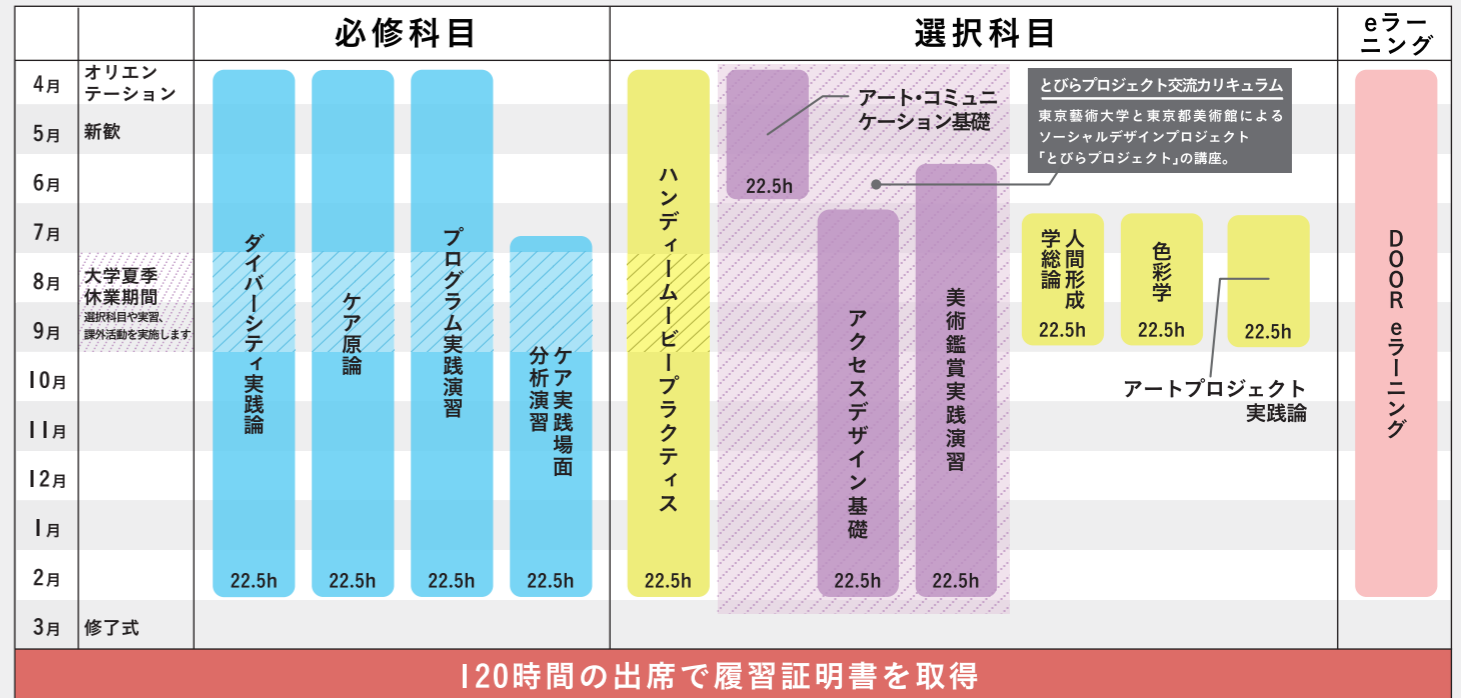
インターネットを利用した学習システム。

授業の連絡や受講生同士の情報交換、過去の講義映像の視聴など、日々の学習を支援します。PCはもちろん、スマートフォンにも対応。自宅や移動中やスキマ時間に学習が可能です。

講師 福島智(学術的バリアフリー学)、久保田翠(認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ)、藤井光(美術家・映像作家)、佐々木淳(医師)、六車由実(民俗学者、社会福祉士) 他 時間数 約100時間

## 履修の流れ

\*履修証明制度について| 文部科学省が推奨する、社会人等を対象として大学が体系だった学習プログラムを提供する仕組み。120時間の受講で履修証明書を取得できます。必修科目4科目(50%以上の出席)、選択科目・eラーニングを組み合わせる履修します。



## DOORプロジェクト修了後の活動イメージ



アートのなかに福祉的な視点を取りこみ、スタッフやアーティストとして活動する



福祉のなかにアートの視点を取りこみ、社会福祉施設などの職員として働く



アート、福祉にこだわらず、自らの職場・地域に共生社会を創造する新たな提言を行なっていく

\*プログラム及び講座の内容は変更になる可能性があります。